

年 頭 挨 拶

会 長 岡 本 一 雄



平成25年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一昨年、日本は東日本大震災という大きな試練を経験しました。現在も多くの方々の絶え間ないご努力やご協力に支えられ、復旧・復興は着実に進められています。

この震災は、我々日本人に、この国の未来をどう考え、どう行動していくかを考えるきっかけを与えてくれたと思います。そして戦後の話を思い出すまでもなく、大きな試練を与えられた時にこそ、知恵を働かせ、誠実に堅実に行動し、明るく元気な未来を創成していく、日本にはそんな力が備わっていると私は確信しています。

日本にはそんな力が備わっていると私は確信しています。

ひとたび経済に目を向ければ、日本は未だ数多くの課題を抱え、より激しさを増すグローバル競争も相まって、日本経済の将来を悲観する声が一段と高まっているのも事実です。

このような状況の中で、日本として今こそ強力に推進すべきことは、優れた科学技術を産み出し、そしてその優れた科学技術を産業競争力の向上につなげるための環境整備を進めることだと考えています。

優れた科学技術という観点で言えば、昨年10月に山中教授がiPS細胞の研究でノーベル生理学医学賞を受賞したことは、まさに日本の科学技術のレベルの高さを世界に知らしめた非常に喜ばしいニュースでした。また夏には、次の世代を担う若者たちの「知のオリンピック」である「国際科学オリンピック」での日本人高校生の活躍（各分野での金メダルの受賞）がありました。これは世界中の中等教育課程にある生徒を対象にした科学技術に関する国際的なコンテストで、科学的才能に秀でた子どもたちを見出し、その才能を伸ばすチャンスを与えること、その才能を伸ばすこと、国際交流・国際理解を深めること等が目的です。山中教授の後を追うような次世代を担う若者が着実に育っていることは、本当に頼もしい限りです。

このような、優れた科学技術を創出できる、研究開発が推進される体制づくりが重要になると思いますが、合わせて産業競争力の観点から事業戦略やビジネス戦略を考える上で、知的財産をどう創造し、どう保護し、どう活用するのか、そしてそれを下支えする知財制度はどうあるべきかが非常に重要になると思います。我々、日本知的財産協会は、次に挙げるような3つの取組みで、これに貢献して行く所存であります。

まず第一に、グローバル活動の推進です。日本企業のグローバルなビジネス展開に伴い、日本企業が知財を戦略的に、かつグローバルに活用できるような体制整備を加速していく必要があります。そのために特許庁が進める五大特許庁を中心とした特許制度調和に向けた提言が必要と考えます。究極

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

的には世界共通特許実現が理想ではありますが、貿易や対外投資の多さからも重要な位置づけとなる、ASEAN諸国での制度調和、連携強化への働きかけを行っていきたいと思います。

第二に、国内制度見直しです。国内制度の中でも、特に職務発明制度に関しては、昨年12月11日に、我々日本知的財産協会主催で、「産業横断 職務発明制度フォーラム」が開催され、数多くの方が参加される中、日本の国際競争力向上のために職務発明制度はどうあるべきか、とても有意義で活発な議論がなされました。これにつきましても引き続き継続して議論を進めていきたいと考えます。

第三に、人材育成です。「知的財産推進計画2012」にもあるように、グローバル競争が激化する中で、知的財産を産業競争力に結びつける、知財マネジメント人材やグローバル性を持った知財専門人材（審査官や弁理士など）を育成していく必要がありますが、特に知財マネジメント人材のための具体的なプラン作成が必要ですので、その働きかけを進めたいと思います。

我々、日本知的財産協会は、将来にわたり人々が心身ともに健全な暮らしが出来るよう、しっかり知恵を働かせ、産業の発展を支える知的財産（制度）のあるべき姿を目指して活動してまいります。

会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

